

また、戦後民主主義教育の要となる「教育基本法」制定のための教育刷新委員会のメンバー多数も新渡戸、内村の弟子たちであった。戦後民主主義と民主主義教育に与えたクラーク博士の影響は非常に大きい。」ということになる。

《クラークが民主主義思想を獲得した経緯》

ピューリタンが築いたリベラルな土地柄の地に生まれる。

・平等主義の高校、人間教育を行う大学、・南北戦争に出征：北軍におけるアメリカ独立宣言の精神の高揚、・マサチューセッツ農科大学設立時の大学教育理念の検討：「共和制下の大学」という概念の形成。これらの体験から民主主義思想と教育思想が形成されていった。

【藤田正一氏のプロフィール】第54代北海道大学応援団長、

元北海道大学副学長、平成遠友夜学校校長
専門：環境毒性学（環境汚染物質が生物の体に及ぼす影響に関する研究）
専門以外の研究：札幌農学校の教育精神の歴史と現代的意義について研究
クラーク関連著書：「北海道大学に通底する精神と教育思想の歴史」（北大総合博物館）、「北海道大学の学問の系譜—北大大学派の学風—」（北大総合博物館）など多数

クラーク会主催 2024 年度バスツアー 「小樽の盛衰と炭鉄港」（報告）

10月21日に開催された2024年のクラーク会主催のバスツアーには34名が参加しました。

小樽には江戸時代に練漁を主な目的にして和人が進出した小樽は、明治2年には開拓使の本庁を札幌に置くことが決定されると、札幌の外港として位置付けられました。明治8年には開拓使による東京・函館・小樽間の定期航路が開設され、明治9年にクラーク博士が来道の際にもこの開拓使の定期航路を利用したと考えられます。明治5年に幌内で見つかった炭塊を「良質」と認めた開拓使出仕の榎本武揚が中央政府に報告し、石炭はこの当時の工業・船舶・鉄道の唯一のエネルギー源であったため、近代化を急ぐ日本の朝野は狂喜しました。石炭積出港として小樽は急速に発展しましたが、昭和30年代からのエネルギー転換により石炭の積み出しが無くなり、苫小牧港の開港によって急速に衰退しました。

小樽港の特徴は、高島岬と平磯岬を結ぶ防波堤に守られ、貨物の積卸は舳を利用した運河方式で、幌内からの鉄道が手宮駅に直結していたことです。この幌内—手宮間の鉄道はアメリカの鉄道技師クロフォードの指導により敷設されましたが、この敷設には札幌農学校在学中の佐藤勇（一期生）が習得した土木技術を生かし、アメリカ人技術者の通訳として「通弁兼測量方」に任命され、後に札幌農学校二期生の廣井勇も橋梁の設計に携わりました。小樽港の防波堤は第一期工事を廣井勇が、第二期工事は彼が東大で教育した伊藤長右衛門の指導によって施工されました。その工事で改良された施工技術（ケイソン施工など）は道内の主要港湾、漁港にとどまらず、その後の世界中の湾岸工事に採用されました。



小樽港の北防波堤
出典：北海道科学大学「土木は面白い Vol. 1」より—
https://www1.hus.ac.jp/~hit_doboku/doboku/1_hiroi.html

小樽築港では大型船舶が直接接岸できる埠頭方式と、海面の埋立による運河方式を巡って論争している中、明治42年7月に欧米視察から帰国した廣井勇が同月21日の小樽区役所の講演で「貨物の種類荷造りの方法等より観て埠頭岸壁による貨物の積卸し他日に譲るとして舳船を利用する運河式の方が便利である」と述べたことが、運河方式の採用に大きな影響を与え、大正12年に堺町立岩から北側の運河が完成したのです。

このツアーでは、小樽開発建設部小樽港湾事務所の「みなと資料コーナー」を訪れ、副所長のご案内で廣井勇と伊藤長右衛門の港湾建設技術改良とその意義の説明を受け、廣井が残した試験体ブリケットの劣化試験が今も継続されていることに感銘を受けました。また、北海道の鉄道発祥の地である旧手宮駅の構内敷地5.8haを利用して設置された小樽総合博物館の本館と、市指定歴史的建造物「旧小樽倉庫」を利用した運河館では、ボランティアの方から解説していただきました。（秋林幸男 記）